

エヅルアと云ふのはイランのゼルブン神の名を取つたもので、ホルムヅタと云ふのはオルムヅト神のことでございます、斯う云ふ神を梵天とか帝釋天とかに配して居るのは彼等は、佛教より先きに摩尼教を信じてさう云ふ神の名を知つて居りますから、其神を佛教の中の諸天に一致させたものである、謂はば一種の神佛同體の考へと見ることが出来ようと思ひます、こんな風に波斯の神の名を佛教の中に取り入れて居るのでありますが、これが更に今日の蒙古の佛教にはいり込んで残つて居ります、蒙古の佛教でもエヅルアとか、ホルムヅタとか云ふ言葉を使つて、梵天とか帝釋天とか云ふ言葉を表はして居るのであります、是はウイグル佛教から蒙古の佛教に及ぼした影響だと思はれます、蒙古の佛教にウイグルの佛教の影響があつたと云ふことは、是より外にも尙證據があります、八陽神呪經の四十行目にサムヌーと云ふ言葉がありますが、之を漢文と對照して見ますと邪魔と云ふ言葉に當ります、尙ほ此の經以外にも此の言葉は既に澤山表はれて居ります、ところが此の語もshmnuと云ふ形で蒙古語の佛典に用ゐられて居ります、即ちこれも亦たウイグルから傳へたものであると考へられるのであります、尙細かに研究して行つて見ますれば、斯う云ふ例は二三ならずあることと思ひます。

蒙古ウイグル兩佛教の關係の一例は唯今申した通りでありますが、支那の佛教とウイグルの佛教との關係はどうであるかといふと、勿論ウイグルの佛典は先程申し上げました様に支那のから翻譯されて居るものが多いのでありますから、従つて支那の佛教上の考を納れて居ることも明らかであります、支那の佛教にウイグルの佛教から及ぼした影響はないかといふと、是はまだ研究をして見ませぬが、あるにしても極めて僅かなものであらうと思ひます、何故ならば彼等は西の方のトカラなどからも佛教を傳へては居るけれども、これを信じましたのが、前述の通